

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200636
法人名	株式会社 福祉浩志会
事業所名	グループホーム 太陽
所在地	倉敷市茶屋町695-6
自己評価作成日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

抑制することのない介護を目指している。また事業所とは別にGH独自のモットーも掲げ、職員同士で気をつけている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	岡山県介護事業所運営向上ネットワーク 外部評価委員会
所在地	事務局 特別養護老人ホームけしごの里 岡山市東区中川町211-3
訪問調査日	2012年12月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念・方針の重要性を管理者が良く理解しており、職員に浸透させる工夫をしていました。入居前後や入居中に本人や家族と密に相談し、関係を大事にしながら思いや要望を汲んで一緒に支援していく姿勢に感心させられました。訪問調査時に真摯に受け答えされる姿勢が、利用者への支援にうかがえ、契約時の説明も丁寧なされ、また、よく観察して細かく記録されていました。今後記録において記入の工夫や記録間の連動により配慮されたら、さらに良くなるのではと期待しております。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が出来ている(参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地球の人々が訪ねてきている(参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている(参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参加項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	項目	自己評価	外部評価		外部評価結果に基づいての取り組み
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	

I.理念に基づく運営

1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所全体の理念とは別に、GH独自のモットーを掲げ、職員間で共有・実践につなげている	リビングに施設の職員モットーを掲げられミーティング等にて周知しておられた。忙しい中、職員にヒヤリングをさせていただきましたが施設、管理者の思いが確実に伝わっていました。	管理者も感じておられましたが慣れから生じるマンネリ化に気を付けていただき常に新しい事に、チャレンジしサービス及び職員の質の向上に努めることを期待します。	マンネリ化しない取り組みとして、今期よりリハビリとレクレーションを重視し取り組んでいます。
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	他事業所(保育園)のおまねきで、運動会やお遊戯会に参加している。	近隣の保育園との交流を確認させていただきました。また、地域の祭りや催事にも参加されていました。	利用者が施設利用前に居住されていた地域においても時折の訪問や交流等にも配慮していただく事を期待します。	地域との交流を深める取り組みとして、個別対応にて行きつけであったお好み焼き屋で食事をしたり、買い物などに同行する取り組みを行っています。
3	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか出来ていないのが現状ですが、近隣の方が協力的なのもっと実践していきたい	自己評価実施状況に記述の通りまだまだこれからの課題として認識されている。	施設の機能を再確認し地域に対して何ができるのか検討し活動していただきたい。特に認知領域(町内研修会等)で貢献できることについては積極的な貢献を期待します。	
4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催。地域の町内会長、民生委員(隣の地区も含む)家族代表・包括支援センター職員・他のGH代表・近隣住民・近所の保育園代表が参加、報告意見交換を行っている。	運営推進会議の開催を議事録にて確認しました。	運営推進会議にて地域代表に集まっていたところをしっかりと認識し地域(町内、学校区)における積極的な交流を期待します。また、内容において35と重複しますが災害対策においては、地域とよく協議し合同にてあらゆる有事にたいしての訓練を積極的に実施していただくこと期待します。	運営推進会議を活用した取り組みとして、地域の行事である文化祭や夏祭りにも参加しています。また、会議の開催時には災害時の援助、避難場所等の確認を行っています。

自己評価	項目	自己評価		外部評価		外部評価結果に基づいての取り組み
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から事業運営などについて相談し助言を受けている	市介護保険課とは、担当者はじめしっかり連携が取れている。	現状を更に強化していただくことを期待します。		倉敷市との連携については、介護保険課に運営推進会議へ参加頂きご意見を頂いています。
6	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	よく理解し、拘束しないようにしている。	現在は、対象者がいないとのことであるが勉強会等を通じて理解していただいている。	①1名夜間にセンサー対応の方がおられましたがご家族には充分にご理解を得てください。また、夜間センサーを解除する取り組みや会議を積極的に実施いただくことを期待します。 ②今後平均介護度が変化してくることも視野に入れ現時点より方針等よく協議してください。		離床センサーは、危険を伴う時にだけの使用としています。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する理解を持って、日々業務にあたっている。	高齢者虐待防止法に関する理解を持って、日々業務にあたっている。	内外部研修等に積極的に参加し深く理解してください。(身体的、介護世話の放棄・放任、心理的、性的、経済的虐待)		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関しては、「身体拘束虐待防止の勉強会」を2～3ヶ月ごとに行っております。参加できない職員にも、参加者が責任をもって伝達研修において周知するようにしております。その他にも内部研修で意識の向上を図っております。また、平成24年に外部講師を招いて権利擁護の勉強会を行いました。	2～3ヶ月ごとの「高齢者虐待と身体拘束」のテーマの勉強会は、議事録と職員の報告書で確認できました。また、平成24年9月に外部講師を招いての「権利擁護の基礎」の研修を、議事録と職員の研修報告書で確認できました。	定期的な研修等を継続して下さい。今後継続的にOJTや研修等で職員の理解度を検証・確認し、権利擁護について、さらに深く理解していただくよう期待します。		

自己評価	項目	自己評価	外部評価		外部評価結果に基づいての取り組み
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要説明事項にて説明し、理解を得るようにしている。また、質問には謙虚に対応している。	管理者により実施されている。	管理者が行なっている事に問題はありますが契約の内容、重説、その他の契約関係内容について各職員にも理解していただくよう期待します。(重要書類等の理解)	契約書等も各スタッフへ重要性を理解してもらうよう開示しています。
10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①面会時にしっかり話を聞くようにしている。 ②運営会議にて家族の参加を願ひし、参加して頂いている。 ③意見箱を玄関に設置している。	業務日誌、運営会議議事録、意見箱の設置を確認しました。実施状況に記載されている内容についての記録確認しました。また、家族からの要望について当日フロー担当職員にヒアリングさせていただき内容について周知されていました。	現在知人の迎えにて礼拝に出かけられている方への支援を継続してください。また、本人、家族からは言えない隠れた要望を引き出せるよう期待します。	
11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的カンファレンスを開催したり必要な時には意見を交換する場を開いている。また、新人職員にも意見をしっかり出してもらい反映している。	2～3カ月に1回カンファレンスを開催しその中で意見を交換を実施し反映。議事録より確認できました。	職員からの要望や提案は、日々の業務等においてあがってくることもあるかと思しますので業務ミーティング等においても積極的に聴取できるよう期待します。特に利用者に関わる事等においては迅速な対応が必要なこともあると考えられます。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士のアドバイスにより、スタッフが不利益とならない体制づくりを目指している。	外部アドバイザーの活用により職員に不利益にならないような体制づくりを目指しておられた。	代表者、管理者による他事業所、他職種等(地域一般企業等)の調査、また働いている方々が将来展望につながるような給与体系や環境整備を期待します。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設事業所と連携し学習会を行いたいと思っている。大きな目標としては、介護福祉士受験に備えて計画途中である。	法人全体で研修会を開催し職員のレベルアップを計画実施されていた。現在は、介護福祉士受験対策を実施。	内部研修計画に、①感染症対策、対応②地震災害時対応③救急時対応等を設定しシュミレーションを通して周知いただくことを期待します。特に新規職員採用時においては確実に実施してください。	内部研修を積極的に実施しています。

自己評価	項目	自己評価		外部評価		外部評価結果に基づいての取り組み
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
14	○同乗者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表、管理者については同業者と情報交換を積極的に行っているがスタッフレベルでは継続的な実現は出来ていない。今後の取り組みとして行っていく。	代表者、管理者についての確認はできました。	管理者モットーであるマンネリ化の防止や職員の刺激にもつながってきますので是非現場スタッフによる交流会や情報交換の機会を検討し実施していただくことを期待します。	スタッフ間の交流会は、定期的に行っています。	

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や連絡を取る中でしっかりと不安に思っていること困っていること要望などを聞き、ご本人の想いを受け取るようにしている。	入居前に要望等を聞くように取り組んでいることを、管理者から確認できました。	引き続き要望を聞き安心していただくようにして下さい。今後、本人から言えない隠れた要望や本人も気付いていないニーズも引き出せるよう期待します。	日々の生活から不満や要望も自然な形で聞き出せる様に工夫しています。
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関わりは特に大事にしており、家族の気持ちをしっかり聴き、ご家族それぞれの思いに沿った介護をしていくように心がけている。	毎週の礼拝の希望にも家族と協力しながら対応しており、家族の要望等に耳を傾け、出来る限り対応しようとの姿勢が感じられました。	今後色々なニーズが増えてくると予想されるので、できることと出来ないことをきちんと切り分けながら、家族と調整していくことが求められます。その中でさらに家族との関係を深めていくことを期待します。	スタッフが積極的に関わり、遠方のご家族とはFAXを活用し関係を深めています。
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人と家族と面談を行うことで、必要な支援へのアドバイス等を行っている。	入居前の本人と家族との面談を踏まえて、歩行等の支援のアドバイスを行っていました。	利用開始時はADL等の現状把握までタイムラグがあり、また慣れるまで本人が精神的に不安になりやすいので、その点も踏まえながら見極め・支援を継続して行ってください。	
18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事を作ったり、掃除をしてもらったり、食器洗いも利用者の出来るところをして頂き協力合っている。	一緒に手作り餃子等の食事を作ったり、自分の部屋の掃除や窓拭きをしてもらっていました。一緒におやつを作ることも検討されていました。	管理者も言われていましたが、今後家事をそれ程されてこられなかった利用者への工夫・取り組みに期待します。	ご入居者に役割を持っていただき、家事に向かない方は買い物や食材運びなど工夫をしています。

自己評価	項目	自己評価	外部評価		外部評価結果に基づいての取り組み
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出。(墓参り、正月の帰省)なども比較的にあり、施設からも状況説明・報告は来所持やや毎月のお手紙で知らせています。	正月に外出し家族と過ごされりと、面会時や手紙を送ったりして共に本人を支えよう努めていました。面会簿も確認しました。	家族によって面会頻度や関わり方に差があります。これまでの本人と家族の関係を理解し大切にしながら、関わりの薄い家族への支援方法を検討・工夫されることを期待します。	スタッフが毎月お手紙を送り、ご利用者の様子をお伝えております。親子関係に障害があり15年以上疎遠になっていたご家族もこれがきっかけとなり関係が回復しました。
20	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週かかさず礼拝に参加される方がいらっしやったり、散歩がてら会いに来たといわれる知人も来られたり、希望に応じて電話をかけたりと要望にも答えている。	スタッフの支援で知人等に手紙を書いたり、馴染みの関係が継続するよう支援していました。	取組みを継続してください。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中も、自室へ戻ることがほとんどなく一人で過ごすことが少ない。また、利用者同士が支え合うような場面もみられる。	フロアで利用者が雑談したりテレビを見たりと各々過ごされていました。	今後団塊の世代が利用者として多くなってきます。多様な生活様式が想定され、自室で過ごされることを好まれる方等に対する支援・サポートを検討されておくことを期待します。	自室で過ごす時間が多igo利用者には、個別でリハビリや外出援助を行っています。
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、ご家族の相談を受けたり、聞いたりする支援に努めている。	家族の意向で特養に移られる方もおられました。利用者の身体精神状況を見ながら、その都度家族と相談しており、きちんと聞いて支援する姿勢が感じられました。	高齢者は急にADLが変化することも多いので、様々な社会資源の中での自分たちの役割を理解したうえで、	

自己評価	項目	自己評価	外部評価		外部評価結果に基づいての取り組み
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に本人の希望や意向を聞き、プランに入れるようにしている。			
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく、ご家族やケアマネからも話を聞いてアセスメントを作成している。	<p>ご利用者様一人にかかるすべての記録を見せて頂きました。 ○ご利用開始前の情報も取れていました。 ○ご契約により、サービス内容、健康管理、終末期介護についての説明を丁寧にされていました。 ○アセスメント表により、ご利用者様の状態把握に努めていました。 ○ケアプランにより、ご利用者様の生活が守られていました。 ○ケアプランの結果について、実施記録にて毎日実施の確認が出来ました。 ○モニタリングもできており、次回につなげられるようになっておりました。 ○ケース記録にて、ご利用者様の日々の状態の記録がありました。</p>	<p>左記の一つ一つの記録としては、細かく記入されていましたが、ご利用者様の生活を支えていくためには、すべての記録、ご利用者様の情報が連動していることが必要だと思います。 ケアプランについては、ご利用者様の要望、ご家族の要望がプランに反映されていないケースも見受けられました。もしかしたら、違う視点で反映されていたのかもしれませんが、記録としては確認できませんでした。反映されていることが分かるような記載をしていただければと思います。 ケアプランの実施記録については、毎日きちんと記録をされておりましたが、モニタリングにつなげられるよう、実施できなかった時などの具体的な状況の記載がもっとあればよいと思いました。 ケース記録については、約1時間ごとに記録をされておりご利用者一人ひとりのこと大変よく観察をされていることは見て取れました。しかし、その観察力をもっと記録の取り方に生かされればと思いました。例えば、1時間ごとの記録ではなくても、ご利用者様が外出した時の様子や帰ってこられてからの状況を記載したり、ご利用者様が何か不機嫌になった時の前後の様子など、また、ご利用者様がすごく喜ばれている時の前後の様子などの記録を残しておくことも必要なのではないかと思います。これだけご利用者様に目が向いている状況が分かる記録がかけられており、大変な労力を使っているのなら、もっと工夫の余地があり、ケアプランなどに連動したものが出来ると思います。</p>	<p>記録については、不穏時の前後など変化があった前後を大切に記入する様に心がけています。ケアプランに関しては、実施できた事、できなかったことを具体的に記載し、次の目標やプランに反映出来る様にしています。</p>
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状況、有する力等の現状の把握に努めている	本人やご家族などからゆっくりと伺っているが、日々の介護の中でも職員が丁寧に現状の把握に努めている。			
26	○チームで作る介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員にも話を聞き、プラン作成に役立っている			
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践できたかできなかったを実施表に記入し、定期的なモニタリングに生かしている。			

自己評価	項目	自己評価	外部評価		外部評価結果に基づいての取り組み
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかなタイムスケジュールのみ作成し、細かい対応は随時行ったり、必要に応じたニーズに合わせて職員が相談しながら柔軟に対応している。			
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員、民生委員の方との情報交換を行っている。			
30	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診に来てくださり、それ以外での特変にはその都度、連絡(電話)などで密に情報交換を行っている。	往診は藤戸クリニックの医師に来てもらっていました。個人の契約(9名中8名) 訪問看護は週1回来てもらっていました。入院は水島協同病院へ行くことが多かったです。		
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、日々の状態状況を見ていただいている。それ以外での特変も電話連絡などで、情報交換している。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者は入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した方はまだいらっしゃらないが医師からの提案や情報などもあり、緊急時の対応、搬送先なども随時話し合っている。			

自己評価	項目	自己評価		外部評価		外部評価結果に基づいての取り組み
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と医師、当事業所と十分話し合い、事業所でできることを十分説明して医師の指示に沿って、重度化した場合や終末期の援助を行う。	契約書に看取りについての記載がありました。確認してもらっています。開設して間がないため看取りを行った事例はないが、状態の変化に合わせてご家族と話し合い、かかりつけ医とも相談しながら方針を決めていました。	終末期に向けてご家族の支援など、どこまでなら自施設で行うことが可能なのかを決めておくことも必要かと思えます。	終末期については、ご本人、ご家族、医師と話し合い方針を決めています。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えについては日々伝えていっている。避難訓練は、年2回の実施をしております。そのうちの1回は、夜間を想定したものを行っております。	平成24年に2回避難訓練を実施しており、その内1回は夜間想定であることを、消防署に提出する消防訓練実施結果報告書で確認できました。また、防火防災体制表、自衛消防組織編制表・連絡網、火災発生時マニュアル等も確認しました。	今の時期、ノロウイルスを疑った対応で、嘔吐したときの対応の取決め、嘔吐物を処理するためのセットなどを用意しておけばよいと思います。避難訓練においては、法定訓練はされているようですが、それにとどまらず今後は様々な災害を想定した訓練や緊急時(突発的な事故、転倒、意識不明等々)に備えて、日頃より勉強会やシュミレーションを通して職員へ周知していただくことを期待します。	嘔吐物用のセットを準備し、定期的な感染予防などの勉強会を行っています。	
35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて、災害時の避難場所の確認をしたり情報収集を行っている。	災害時の避難場所は茶屋町の公民館になっていました。運営推進会議等を通じて確認されている。			

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご利用者の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけている。			
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず、ご利用者へ希望を聞き、悩んでいたり、迷っている場合は決定できるように支援している。	買い物の好きな方がおられ、ご家族との確認のもと月に1回程度何を買ってもいい日を設けているとのことでした。また、自宅に帰って片付けなどの個人的な支援も行っているとのことでした。(3名程度)		

自己評価	項目	自己評価		外部評価		外部評価結果に基づいての取り組み
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のタイムスケジュールを作らず、日々の中でやりたい事・食べたい物を決め支援している。	おやつは買い物に行った際選んでもらっている。食事はご飯、汁物、メインディッシュはGH内で作るが副菜は隣の厨房で作ってもらっている。	メニューが画一的にならないような工夫をしていけたらよいと思います。月に1回程度でも入居者の食べたいものをみんなで作る、という方法もあると思います。	毎月1～2回は自由メニューを伺い提供しています。	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している	お化粧品やひげそりなどご自身でできることは見守りの中させていただき、メリハリを持った生活を送っていただいている。				
40	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者との職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを把握し楽しく買い物調理をし、食事を楽しんでいる。また、定期的に外食にも出かけている。	調理のお手伝いの可能な方ではできるだけしてもらい、職員と一緒に準備ができる環境にありました。年に3～4回は外食に出かけ外の食事を皆で楽しむ機会も設けていました。			
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を見ながら、別々の形態、食べるものを検討し、その人その人に合わせ支援している。	現在、刻み食の方が3名、水分にとろみをつける方が3名おられました。水分の取りにくい方は水分量を測るなどしていました。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き義歯の清潔の確保など職員が気にかけている。	ブライムケアデンタルと提携して、口腔ケアに関わる相談はそこにしていました。	肺炎、誤嚥予防の意味でも口腔ケアの専門家による指導は必要かと思います。事業所内またはグループ内で学習会を開くなど考えてみてはいかがでしょうか。	歯科医師による口腔ケアの勉強会を計画しています。	
43	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を	個々の排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄や自立にむけた支援を行っている。	日中は全員がトイレに行かれています。紙パンツ、パットの方が5名で、夜間ポータブルトイレが1名となっているとのことでした。			
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への動きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸飲料などを提出したり、気候が良い日は散歩に出かけたり、レクなどで体を動かす運動もしている。必要に応じて薬で対応している。	朝、皆さんにヤクルトを飲んでいただいています。効果のほどは不明・・・とのことでした。			

自己評価	項目	外部評価			外部評価結果に基づいての取り組み
		自己評価	外部評価		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望、タイミングに合わせて提供し、その日の状況に合わせて入浴していただいている。	週2日の入浴、13:30～16:30の間に2名～4名の方が入られていました。	毎日入浴したい、夜間に入浴したい等の要望が出たときの対応を検討していただければと思います。	夜間入浴の取り組みは検討中です。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中なるべく起きて活発に生活していただいたり個々のペースで生活してもらい夜間眠れない方には、飲み物等をお出しし落ちついていただけるよう支援している。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての目的、用途、用量を把握し、医師の指示どおりに服用支援している。症状に変化がみられた場合は、早期に医師へ報告している。	医師に相談するだけではなく訪問看護の看護師とも相談し、適切な服薬支援を心がけているとの事でした。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた作業や役割をしていただきながら、気分転換等の支援を行っている。	台所に立つ仕事や掃除などその人の得意分野、やりたいことを中心にお手伝いいただいているとの事でした。		
49	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	毎日食事の買い出しに利用者の希望や体調を見ながら行ったり、季節毎に外食やドライブにも行っている。また家族・知人の協力のもと、外出をしていただいている。	毎週、教会へ行かれる方がおられる。その他、美容院へ行くなど本人の希望に沿う形で外出を支援している。全体での外出だけでなく、担当職員と利用者だけの密な外出も計画していました。	これからも利用者の希望に沿った外出を企画していただきたいと思います。	外出に関しては、ご利用者の担当職員が調整行っています。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理化しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時金銭トラブルがないよう持ってもらう様説明しているが、希望のある方は管理できる範囲で持っている方もおり、買い物へ行く際嗜好品を買っている。	現在2名の方がお金を所持していました。その他は立替で対応していました。		

自己評価	項目	自己評価		外部評価		外部評価結果に基づいての取り組み
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	○電話や手帳の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が安心されたり孤立感が軽減されたりするので家族と協力しながら適切に援助している。	ご家族から電話が入ることはあるが、自分からかける事はありませんでした。			
52	○居心地のよい共有空間づくり 共有の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、居室扉等も落ち着いた色でそろえ、天井の窓から光をたくさん入れるよう空間には配慮している。				
53	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア一席も各自、気の合った方と同じテーブルになっており、ソファでゆったりされたり、個々の居場所作りもできている。				
54	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊りの部屋は、本人や家族との相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具や生活用品・趣味・小物を持って来ていただいている。	ベッドのみ備え付けとなっている。使い慣れた家具など何をもってきてもらっても良いが、なかなかもって来られないとのことでした。ご家族にもアプローチをしていました。	居室のしつらえでアプローチしても、なかなか協力が難しいご家族への対応方法を再検討してはどうかと思います。	必要な物品などご協力頂ける様をお願いしております。遠方のご家族に対しては、FAXや電話にてご連絡をさせて頂いています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の前には名札をかけ、わかりやすくしている背の小さい方には扉に名札をかけている。また安全に気をつけて入居者の動線には注意をしている				